

15. 福岡県 直方市立図書館

直方市立図書館サービス充実支援事業（平成19年度地域の図書館サービス充実支援事業）

（1）事業の趣旨・概要

地域の小・中学校を対象に、図書館利用の啓発を行う。具体的には、児童用の図書館利用案内リーフレットを作成し、図書館の利用や情報活用について指導・助言を行うことや地域の小・中学校に図書館司書を派遣することによるブックトーク、ブックトークの内容をまとめた活動記録集を近隣の小・中学校、読書ボランティアグループ等に配布し、読書活動を支援する。

※委託先・図書館の概要（平成20年3月末現在）

委託先	自治体・機関名	直方市立図書館
	所在地	〒822-0034 福岡県直方市山部 301-11 ユメニティのおがた内
	連絡先	TEL 0949-25-2240
		FAX 0949-23-3902
		E-mail info-library@yumenity.jp
URL http://www.yumenity.jp/library/library.html		
図書館の概要（平成20年3月末現在）	職員数	14人（うち司書14人）
	開館時間	平日・土曜日 10:00～19:00
		日曜日・祝日 10:00～17:00
	年間開館日数	297日
	蔵書数	（AV資料・雑誌を含む）149,667冊
	利用登録者数	22,963人
	年間利用者数	（貸出利用者）68,455人
	年間貸出冊数	（個人）285,738冊
運営状況	平成18年度から指定管理者制度導入し、（財）直方文化青少年協会による運営が行われている。また、図書館業務は司書の有資格者でなければならないという規定がある。	

※地域の現況・特色

直方市は、福岡県の筑豊地区に位置する直鞍地区の中心都市である。近隣の自治体には、図書館未設置市町も多く、広域的に館内・館外の図書館サービスを実施している。また、教育エリアでは、北九州教育事務所の管轄になる。
面積：61.78km² 人口：6万人

（2）事業の実施体制

「直方市立図書館充実支援実行委員会」を組織して実施した。

<委員構成>

学識経験者（学校教育関係）、市社会教育委員、市PTA連合会小学校代表、市PTA連合会中学校代表、女性人材情報バンク登録者、市教育委員会生涯学習課職員、市立図書館長、市立図書館司書 計9名

<主な役割>

図書館職員が基本ベースを作成したリーフレット・記録集などの検討、学校への広報支援

(3) 事業体系

実施した事業は下記の2つである。

①児童用図書館利用案内リーフレットの作成	i 県内図書館より各館の利用案内を収集 ii 図書館利用のオリエンテーションの実施
②ブックトーク記録集の作成	i 司書のブックトークの内容のまとめ ii ブックトーク実施後の教師へのアンケートの実施

(4) 当事業に取り組んだ背景・経緯

平成15年に学校からの要請で、司書を学校に派遣しブックトークを行った。その活動が好評でブックトーク派遣申込がだんだんと増加したため、職員みんなができるようにと、それぞれが自己研鑽で取り組むようになった。そうした職員個々のブックトークへの取り組みを集大成として記録にまとめ、情報を共有化し、学校や読書ボランティアなどで活用してもらえるようにしたいという思いがあった。

また、学校の調べ学習や施設利用（公共施設見学）に際し、図書館の使い方、使う際のマナーなどについてレクチャーしてほしいという学校からの要請があり、児童・生徒を集めてオリエンテーションを実施し説明していたが、その際、利用案内が大人向けのものしかなく、子ども向けの利用案内作成の必要性を感じていた。

(5) 各事業の内容と現在までの取り組み状況

①児童用図書館利用案内リーフレットの作成

i 県内図書館より各館の利用案内を収集

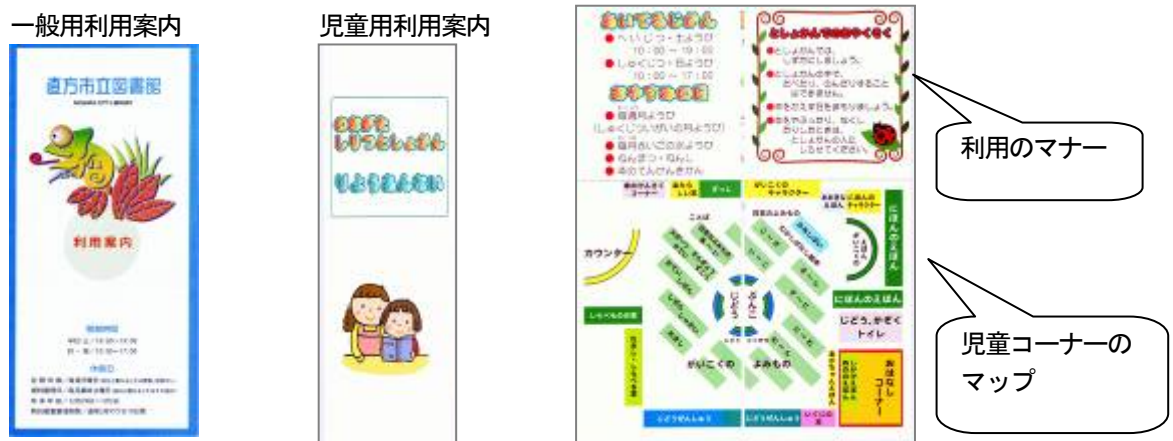
児童用の利用案内を17館分、一般用の児童案内を31館分収集し、収集した資料を参考に「のおがたしりつとしょかん りょうあんない」（児童用）を作成した。

<作業手順>

- 収集した各リーフレットの内容、レイアウトなどを参考にし、職員が原稿を作成
- それを基に実行委員会で検討⇒レイアウトや文字の大きさについて意見が出る
- 意見内容を反映させ、職員が最終原稿を作成

【工夫のポイント】

- 児童コーナーのマップ、一般用には掲載がない図書館利用のマナー、本の探し方、本の分類について掲載し、児童の調べ学習、図書館利用に役立つ情報を内容に盛り込んだ。





本の探し方、本の分類についてわかりやすく解説

<出来上がったリーフレットの配布>

- 市内小学校、近隣市の小学校の児童全員に配布
- 子どもの図書館利用カード作成時に配布
- 学校利用のオリエンテーション時に全員に配布

ii 図書館利用のオリエンテーションの実施

学校が施設利用（社会見学）、調べ学習等で来館した際、オリエンテーションを実施している。児童用図書館利用案内リーフレットができる前は、一般用（大人用）しかなく、それを配布し、図書館の利用方法など基本的なことは、説明用に大きく書き出したものを見せて対応していた。児童用図書館利用案内リーフレット完成後は、全員に配布して説明を行っている。

図書館利用のオリエンテーション



<調べ学習・施設利用の受け入れ件数>

年度	依頼件数	参加人数
18年度	9団体	357名
19年度	9団体	325名
20年度	10団体	368名

②ブックトーク記録集の作成

i 司書のブックトークの内容のまとめ

地域の小・中学校に図書館司書を派遣し、ブックトークを実施しているが、情報の共有化と学校や読書ボランティアなどでの活用を考え、個々の職員が行ったブックトークの内容をまとめた活動記録集を作成した。

作成されたブックトーク記録集



<作業手順>

- 担当職員が他のブックトークの本などを参考にしながら、レイアウトを考え、共通のフォーマットを作成
- 全職員が自分の実施したブックトークを共通のフォーマットに記入
- それを元に担当職員がデータ入力

ii ブックトーク実施後の教師へのアンケートの実施

地域の小・中学校へ司書を派遣しブックトークを実施した際、子どもたちのその場の反応は記録していたが、その後の学校での子どもたちの様子を検証したことはなかった。

当初、児童へのアンケートも計画していたが、「本を楽しむ」というブックトークの本来の目的から外れるため、教師へのアンケートのみに変更した。

<方法>

ブックトーク実施後、教師にその後の子どもたちの様子などをアンケートに記入してもらい、後日 FAX で送付してもらう。

⇒その後の子どもたちの様子、反応を知ることができたが、主に「よかった」「子どもたちが本に興味を持った」という好評の内容のものが多く、「ここをこうしてほしい」という具体的な内容まで踏み込むような幅広い意見が取れなかった。そのアンケート結果を直接ブックトークの運営に反映させるまでには至っていない。

※ブックトーク後のアンケートは20年度も継続

学校でのブックトークの様子



<学校へのブックトークの派遣依頼件数>

年度	依頼件数	対象人数
18年度	26件	707名
19年度	25件	720名
20年度	24件	743名

(6) 事業の成果・効果と事業実施後の取り組み

①事業の成果・効果

事業の主な成果・効果は次のとおりである。

i 児童用図書館利用案内を配布したことによる効果

以前、オリエンテーション時に口頭で説明していた内容が資料として各児童の手元に残るようになったので、子どもの図書館利用の理解が深まっている。

⇒学校の図書館施設利用後に行われた図書館についての学習発表の授業を司書が見学した際、オリエンテーションで説明した内容が児童にきちんと理解されていることがわかった。

ii ブックトーク記録集の作成・配布による成果・効果

○職員が各々独自に行ってきたブックトークの実績をまとめることにより、情報が共有化され、他の人にも参考にしてもらえる有効なツールになっている。

⇒20年度に実施したブックトーク中級講座で活用できた。

○記録集配布後、ボランティアグループからは「勉強になった」「もっと冊数がほしい」など、反響が大きかった。

【成功のキーポイント】

職員全員にブックトークの経験があり、作成に職員全員が関わったため、数多くのブックトークの実践記録を収集、掲載できた。

②事業実施後の取り組み

委託事業実施後に、新たに2つの取り組みを行った。

i ブックトーク初級講座

平成 19 年度に企画提案・協力を直方市立図書館が行い、直方市中央公民館が主催でブックトークの初級講座を直方市民対象に実施した。

ii ブックトーク中級講座

平成 20 年度は福岡県教育委員会主催の「北九州地区読書ボランティア養成講座」で直方市立図書館が主管(会場)となり、ブックトークの中級講座を実施した。

対象：北九州教育事務所管内の保育園、幼稚園、小・中学校、図書館等で活動している読書ボランティア
公立図書館、公民館図書室関係職員

小・中学校司書教諭、図書館教育担当教職員

⇒受講者も広域から集まり、幅広くブックトークについて普及できた。その場でも記録集を配布し、参考資料として活用できた。

運営：職員全員にブックトークの実績があったため、グループごとの実習では、各グループに直方市立図書館職員がついて助言・作業の手助けをするという細やかな対応ができた。

【工夫のポイント】

○講座の会場内にブックトークに使える本を展示した。

○講座期間中には館内にもコーナーを設け、関連する本を展示した。

<事業の成果・効果>

ブックトークの展開を考え、シナリオをつくるには時間がかかるにもかかわらず、受講者に途中脱落者はなく、全員が修了している。受講者には、学校での読み聞かせや、図書館ボランティアなどの活動をしている人も多く、個々の活動でブックトークの活用が期待される。



ブックトーク中級講座



講座の会場内で関連図書を展示

(7) 課題と今後の展望

①課題

課題としては主に次の3点が挙げられる。

i 学校教員との連絡・連携の強化

様々な事務連絡の効率を上げ、ブックトーク等の事業での効果を高めるために、連携の強化策が必要である。

ii 記録集の存在などを一般に周知させるための積極的な広報活動

記録集が完成したことの告知が館内でのポスター掲示のみだったため、市民への積極的なPRが必要である。

iii 児童利用案内を配布したことによる効果の検証

現在、年齢別の利用統計を採っていないため、統計上の利用変化は不明であるが、児童の利用方法の変化などを詳しく見ていく必要がある。

②今後の展望

今後の児童サービスの展開として、次のような取り組みを予定している。

i 小・中学校図書館担当者（教員）との連絡会の開催

平成21年度から、市内の小・中学校15校の図書館担当者との連絡会を設ける予定である。従来までは、文書で様々な連絡をしていたが、うまく伝わらないことが多かったため、関係者が一堂に会して、情報交換・意見交換をし、相互理解をする場が必要だという理由からである。

<期待される効果>

学校からの要望として、本の紹介、子どもの読書に関わること、図書館の使い方、教科に合った資料リストの提供などがあり、現在はその都度対応している。図書館側としても、教員向けに選書の参考にしてもらうための児童書の展示会などを実施しているが、情報がうまく伝わっていない。そうした現況を踏まえ、年度当初に文書で各学校にブックトークの派遣、調べ学習、施設利用についての案内を行っているが、連絡会を持つことで、具体的な内容を説明でき、また学校側の要望なども聞け、相互理解がさらに深まることが期待される。



○子どもの読書に関わる学校と図書館の連携を点ではなく、線・面になるように強めていきたい。

○教科の流れや前後の授業の流れを図書館側でも把握できれば、ブックトークの内容をさらに工夫できる。

○授業や教科に関連したブックトークは毎日子どもと接している学校の先生が実施した方が効果がある。ブックトークの手法を学校の先生にも徐々に取り入れてもらえるような情報提供をしていきたい。

ii 図書館から遠い学校への配本サービス

図書館から遠方にある学校の児童の利用を促進するため、学校への配本サービス（出張貸出）の実施を予定している。試験的にまず2校で実施予定である。

iii ヤングアダルト資料の充実

ヤングアダルトコーナーは以前から設置していたが、平成20年度に棚を増やし、文庫も導入している。また、アンケートボックスを設置し、ヤングアダルトの要望を聞いて選書会議にかけ、できるだけ購入するようにしている。

【工夫のポイント】

アンケートボックスに寄せられた要望・意見に対して、掲示板にて回答している。

柱の部分を利用して増やした文庫用の棚



ヤングアダルトコーナー

ヤングアダルトコーナーのアンケートボックスと掲示板